パフォーマンス カウンタ

- Counters （1 ページ）
- perfmon カウンタ データのローカル ロギング （5 ページ）
- Perfmon ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールのログ ファイル （8 ページ）
- Troubleshooting （12 ページ）

Counters

パフォーマンス クエリーを使用したカウンタの追加

perfmon カウンタを選択し、表示するためにクエリーを使用できます。 機能ベースのカウンタのセットを表示し、1 つのカテゴリに保存するように、perfmon カウンタを整理できます。 Unified RTMT プロファイルを保存した後は、関心のあるカウンタにすばやくアクセスできます。

Unified RTMT は、perfmon カウンタをチャート形式または表形式で表示します。 チャート形式では、perfmon カウンタ情報が折れ線グラフを使用して表示されます。 作成した各カテゴリ タブの [Perfmon モニタリング（Perfmon Monitoring）] ペインに最大 6 つのチャートを表示でき、1 つのチャートに最大 3 つのカウンタを表示できます。 カテゴリを作成した後で、チャート形式から表形式に、またはその逆に表示を変更することはできません。

ヒント [Perfmon モニタリング（Perfmon Monitoring）] ペインでは、1 つのチャートに最大 3 つのカウンタを表示できます。 チャートに別のカウンタを追加するには、カウンタをクリックして [Perfmon モニタリング（Perfmon Monitoring）] ペインにドラッグします。 この操作を繰り返して、最大 3 つまでカウンタを追加します。

デフォルトでは、Unified RTMT は perfmon カウンタをチャート形式で表示します。 また、perfmon カウンタを表形式で表示するように選択することもできます。 perfmon カウンタを表形式で表示するには、新しいカテゴリを作成するときに **Present Data in Table View** チェックボックスをオンにする必要があります。

手順

ステップ 1 **[システム（System）]**>**[パフォーマンス（Performance）]**>**[パフォーマンス監視を開く（Open Performance Monitoring）]** を選択します。

ステップ 2 モニタするカウンタを追加するサーバーの名前をクリックします。

ツリー階層が拡大し、すべての perfmon オブジェクトが表示されます。

ステップ 3 表形式でカウンタをモニタするには、ステップ 4 に進みます。チャート形式でカウンタをモニタするには、ステップ 9 にスキップします。

ステップ 4 **[編集（Edit）]** > **[新規カテゴリ（New Category）]** の順に選択します。

ステップ 5 [名前の入力（Enter Name）] フィールドに、タブの名前を入力します。

ステップ 6 perfmon カウンタを表形式で表示するには、**Present Data in Table View** チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 7 **OK**をクリックします。

入力した名前の新しいタブが、ペインの下部に表示されます。

ステップ 8 1 つ以上のインスタンスを指定した 1 つ以上のカウンタを選択して、表形式でモニタリングするには、次のいずれかの作業を実行します（この手順の残りのステップをスキップしてください）。

- 単一のカウンタをダブルクリックし、ダイアログボックスから単一のインスタンスを選択します。次に、**Add** をクリックします。
- 単一のカウンタをダブルクリックし、ダイアログボックスから複数のインスタンスを選択します。次に、**Add** をクリックします。

ヒント
カウンタを表形式で表示した後に、チャート形式で表示するには、カテゴリ タブを右クリックし、**Remove Category** を選択します。 カウンタはチャート形式で表示されます。

ステップ 9 チャート形式のカウンタをモニタするには、次のタスクを実行します。

a) モニタするカウンタを示すオブジェクト名の横のファイル アイコンをクリックします。

カウンタのリストが表示されます。

b) カウンタ情報を表示するには、カウンタを右クリックし、[カウンタ モニタリング（Counter Monitoring）]をクリックするか、カウンタをダブルクリックするか、または [Perfmon モニタリング（Perfmon Monitoring）] ペインにカウンタをドラッグ アンド ドロップします。

カウンタ チャートが [Perfmon モニタリング（Perfmon Monitoring）] ペインに表示されます。

[パフォーマンスの監視（Performance Monitoring）] ペインからのカウンタの削除

カウンタ チャート（表エントリ）は、メニュー バーのメニューにある [チャート/表エントリの削除メニュー項目を使用して削除できます。

不要になったカウンタは、[RTMT Perfmon モニタリング（RTMT Perfmon Monitoring）] ペインから削除できます。 ペインからカウンタを削除するには、次の手順に従ってください。

手順

次のいずれかの作業を実行します。

- 削除するカウンタを右クリックし、[削除（Remove）]を選択します。
- 削除するカウンタをクリックし、**[Perfmon]** > **[チャート/表エントリの削除（Remove Chart/Table Entry）]** の順に選択します。

カウンタ インスタンスの追加

カウンタ インスタンスを追加するには、次の手順に従ってください。

手順

ステップ 1 パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。

ステップ 2 パフォーマンスモニタリングのツリー階層で、パフォーマンスモニタリングカウンタをクリックし、**[システム（System）]** > **[パフォーマンス（Performance）]** > **[カウンタ インスタンス（Counter Instances）]** の順に選択します。

ステップ 3 [インスタンスの選択（Select Instance）]ウィンドウで、インスタンスをクリックし、次に、[追加（Add）]をクリックします。

カウンタが表示されます。

カウンタ アラート通知のセットアップ

カウンタのアラート通知を設定するには、次の手順に従ってください。

ヒント　カウンタのアラートを削除するには、カウンタを右クリックし、[アラートの削除（Remove Alert）] を選択します。 オプションは、アラートを削除するとグレー表示されます。

手順

ステップ 1　パフォーマンス カウンタを検索して表示します。

ステップ 2　カウンタのチャートまたは表から、アラート通知を設定するカウンタを右クリックし、[アラート/プロパティの設定（Set Alert/Properties）]を選択します。

ステップ 3　[アラートの有効化（アラートのイネーブル化）]チェックボックスをオンにします。

ステップ 4　[重大度（Severity）]ドロップダウン リスト ボックスで、通知する重大度を選択します。

ステップ 5　[説明（Description）]ペインで、アラートの説明を入力して[次へ（Next）]をクリックします。

ステップ 6　[しきい値（Threshold）]、[次の値で算出（Value Calculated As）]、[期間（Duration）]、[頻度（Frequency）]、および[スケジュール（Schedule）] ペインで設定値を設定します。 ウィンドウで設定を入力したら、[次へ（Next）]をクリックして次のペインに進みます。

ステップ 7　アラートの電子メール メッセージを送信するようにシステムを設定するには、[電子メールの有効化（電子メールの有効化(Enable Email)）]チェックボックスをオンにします。

ステップ 8　すでに設定されているアラート アクションをトリガーするには、[アラート アクションをトリガー（アラートのトリガーアクション(Trigger Alert Action)）]ドロップダウン リスト ボックスから対象のアラート アクションを選択します。

ステップ 9　アラートの新しいアラート アクションを設定するには、[設定（Configure）]をクリックします。

（注）
指定されたアラートがトリガーされたときに、システムはアラート アクションを送信します。

[アラート アクション（Alert Action）]ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 10　新しいアラート アクションを追加するには、[追加（Add）]をクリックします。

[アクション設定（Action Configuration）] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 11　[名前（Name）] フィールドに、アラート アクションの名前を入力します。

ステップ 12　[説明（Description）] フィールドにアラート アクションの説明を入力します。

ステップ 13　アラート アクションの新しい電子メール受信者を追加するには、[追加（Add）]をクリックします。

[入力（Input）] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 14　アラートアクションの通知を受け取る受信者の電子メールまたはEページアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

ステップ 15 ユーザ定義の電子メール テキスト ボックスに、電子メールに表示するテキストを入力し、[有効化（Activate）]をクリックします。

カウンタの説明の表示

カウンタの説明を取得する方法を次に示します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの作業を実行します。

a) Perfmon ツリー階層で、プロパティ情報が必要な対象のカウンタを右クリックし、[カウンタの説明（Counter Description）]を選択します。

b) [RTMT パフォーマンス モニタリング（RTMT Performance Monitoring）] ペインで、カウンタをクリックし、メニュー バーから **[システム（System）] > [パフォーマンス（Performance）] > [カウンタの説明（Counter Description）]** の順に選択します。

ヒント
カウンタの説明を表示し、データサンプリング パラメータを設定できます。

[カウンタのプロパティ（Counter Property）]ウィンドウには、カウンタの説明が表示されます。 この説明には、ホスト アドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。

ステップ 2 [カウンタのプロパティ（Counter Property）]ウィンドウを閉じるには、[OK]をクリックします。

perfmon カウンタ データのローカル ロギング

RTMT では、さまざまな perfmon カウンタを選択して、ローカルにロギングすることができます。 その perfmon CSV ログのデータは、パフォーマンス ログ ビューアを使用して表示できます。

perfmon カウンタ ロギングの開始

CSV ログ ファイルへの perfmon カウンタ データのロギングを開始するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。

ステップ 2 perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、データ サンプル情報が必要な対象のグラフを右クリックし、[カウンタ ロギングの開始（Start Counter(s) Logging）]を選択します。

[カウンタ ロギングの設定（Counter Logging Configuration）]ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 3 画面上のすべてのカウンタを記録するには（チャート形式および表形式のいずれも）、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ロギングの開始（Start Counter(s) Logging）]を選択します。

[カウンタ ロギングの設定（Counter Logging Configuration）]ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 4 ファイル パラメータの最大ファイル サイズおよび最大数を設定します。

ステップ 5 [ロガー ファイル名（Logger File Name）]フィールドに、ファイル名を入力して [OK]をクリックします。

RTMT は、ユーザーのホームディレクトリにある .jrtmt ディレクトリ内のログフォルダに CSV ログファイルを保存します。 たとえば、Windows ではパスが `D:\Documents and Settings\userA\.jrtmt\log` となり、Linux では `/users/home/.jrtmt/log` となります。

ファイルの数とサイズを制限するには、特定サービスのトレース出力設定でファイルパラメータの最大ファイルサイズと最大数を、Cisco Unified Serviceability の **[トレース設定（Trace Configuration）]** ウィンドウで設定します。『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

（注）
perfmon カウンタのロギングをすでに開始していて、ファイルの最大ファイル サイズおよび最大数を変更する場合は、最初にカウンタを停止してから最大ファイルサイズとファイル数のパラメータを再設定する必要があります。 パラメータをリセットすると、perfmon カウンタのロギングを再開できます。

perfmon カウンタ ロギングの停止

perfmon カウンタ データのロギングを停止するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 パフォーマンス モニタリング カウンタを検索して表示します。

ステップ 2 perfmon カウンタをチャート形式で表示している場合は、カウンタ ロギングが開始されているグラフを右クリックし、[カウンタ ロギングの停止（Stop Counter(s) Logging）]を選択します。画面上のすべてのカウンタのロギングを停止するには（チャート形式および表形式のいずれも）、ウィンドウの一番下にあるカテゴリ名タブを右クリックして、[カウンタ ロギングの停止（Stop Counter(s) Logging）]を選択します。

データ サンプルの設定

[カウンタのプロパティ（Counter Property）]ウィンドウには、カウンタのデータ サンプルを設定するためのオプションがあります。 [RTMT Perfmon モニタリング（RTMT Perfmon Monitoring）] ペインに表示される perfmon カウンタには、経時的なデータのサンプルが緑色の点で表示されます。 収集するデータ サンプルの数やチャートに表示するデータ点の数は設定することができます。 データ サンプルを設定した後は、[すべてのデータを表示/現在のデータを表示（View All Data/View Current Data）] メニュー オプションを使用して情報を表示できます。

カウンタのために収集するデータ サンプルの数を設定するには、次の手順に従ってください。

手順

ステップ 1 カウンタを検索、表示します。

ステップ 2 データ サンプル情報が必要な対象のカウンタをクリックし、**[システム（System）]**>**[パフォーマンス（Performance）]** > **[モニタリングのプロパティ（Monitoring Properties）]** の順に選択します。

[カウンタのプロパティ（Counter Property）]ウィンドウには、カウンタの説明のほか、データ サンプルを設定するためのタブが表示されます。 この説明には、ホスト アドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、およびカウンタの内容の概要が含まれます。

ステップ 3 カウンタのデータ サンプル数を設定するには、[データ サンプル（Data Sample）]タブをクリックします。

ステップ 4 [データ サンプルの数（No. of data samples）]ドロップダウン リスト ボックスで、サンプル数を選択します（100 ～ 1000）。

デフォルトは 100 です。

ステップ 5 [チャートに表示するデータ ポイント数（No. of data points shown on chart）]ドロップダウン リスト ボックスで、チャートに表示するデータ ポイントの数を選択します（10 ～ 50）。

デフォルトは 20 です。

ステップ 6 次のいずれかのパラメータをクリックします。

- [絶対値（Absolute）] : 一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在のステータスを表示する場合に選択します。

- [差分（Delta）]：現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。
- [差分比率（Delta Percentage）]：カウンタ パフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。

ステップ 7 [カウンタのプロパティ（Counter Property）]ウィンドウを閉じ、[RTMT Perfmon モニタリング（RTMT Perfmon Monitoring）] ペインに戻るには、[OK]をクリックします。

カウンタ データの表示

パフォーマンス カウンタで収集されたデータを表示するには、次の手順に従ってください。

手順

ステップ 1 [RTMT Perfmon モニタリング（RTMT Perfmon Monitoring）] ペインで、データ サンプルを表示するカウンタのカウンタ チャートを右クリックします。

ステップ 2 [すべてのデータを表示（View All Data）]を選択します。

カウンタ チャートには、サンプリングされたすべてのデータが表示されます。 緑色の点は近接して表示されます。

ステップ 3 現在表示されているカウンタを右クリックします。

ステップ 4 [現在のデータを表示（View Current）]を選択します。

カウンタ チャートには、最後に設定され、収集されたデータ サンプルが表示されます。

Perfmon ログ ビューアおよび Microsoft パフォーマンス ツールのログ ファイル

パフォーマンス ログ ビューアには、選択したカウンタのデータを示すチャートが表示されます。 下部のペインには、選択したカウンタ、それらのカウンタの色凡例、表示オプション、平均値、最小値、および最大値が表示されます。

次の表では、パフォーマンス ログ ビューアで使用できるさまざまなボタンの機能について説明します。

表 *1*: パフォーマンス ログ ビューア

ボタン	機能
カウンタの選択（Select Counters）	パフォーマンス ログ ビューアに表示するカウンタの カウンタの横にある [表示（Display）] カラムのチ
Reset View	パフォーマンス ログ ビューアを初期のデフォルト
ダウンロードしたファイルの保存（Save Downloaded File）	ローカル コンピュータへのログ ファイルの保存を

Perfmon ログ ビューアでのログ ファイルの表示

パフォーマンス ログ ビューアには、perfmon CSV ログ ファイルからのカウンタのデータがグラフィック形式で表示されます。 パフォーマンス ログ ビューアを使用して、収集したローカル perfmon ログのデータを表示することも、Real-time Information Server Data Collection（RISDC）perfmon ログのデータを表示することもできます。

始める前に

ローカル perfmon ログは、コンピュータで選択し、ローカルに保存したカウンタのデータで構成されます。

手順

ステップ 1 **[システム（System）] > [パフォーマンス（Performance）] > [パフォーマンス ログ ビューアを開く（Open Performance Log Viewer）]** の順に選択します。

ステップ 2 表示する perfmon ログのタイプを選択します。

- RisDC Perfmon ログについては、次の手順を実行します。
  1. [Perfmon ログの場所の選択（Select Perfmon Log Location）] セクションで RisDC Perfmon ログを選択します。
  2. リスト ボックスからノードを選択します。
  3. [開く（Open）]を選択します。
  4. ファイルを選択し、[ファイルを開く（Open File）]を選択します。
  5. 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
  6. [OK] を選択します。
- ローカルに保存されたデータについては、次の操作を実行します。
  1. [ローカル Perfmon ログ（Local Perfmon Logs）]を選択します。

2. [開く（Open）]を選択します。
3. ファイル ディレクトリを参照します。
4. 表示するファイルを選択するか、ファイル名フィールドにファイル名を入力します。
5. [開く（Open）]を選択します。
6. 表示するカウンタにチェックマークを付けます。
7. [OK] を選択します。

ステップ 3 表示するカウンタを選択します。

ステップ 4 [OK] を選択します。

パフォーマンス ログ ビューアの拡大と縮小

パフォーマンス ログ ビューアには、チャートの一部を拡大および縮小できるズーム機能が備わっています。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

a) クイック起動チャネルで次の手順を実行します。

- [システム（System）]を選択します。
- ツリー階層で、[パフォーマンス（Performance）]をダブルクリックして、パフォーマンス アイコンを表示します。
- [パフォーマンス（Performance）]アイコンを選択します。

b) **[システム（System）] > [パフォーマンス（Performance）] > [パフォーマンス モニタリングを開く（Open Performance Monitoring）]** の順に選択します。

ステップ 2 カウンタが配置されているサーバーの名前を選択します。

ツリー階層が拡大し、そのノードのすべての perfmon オブジェクトが表示されます。

ステップ 3 モニタするパフォーマンス カウンタをダブルクリックします。

ステップ 4 次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
チャートの一部を拡大する	• マウスの左ボタンをクリックし、チャート内で • 必要な領域を選択してから、マウスの左ボタン

目的	操作
チャートを初期のデフォルト表示にリセットする	次のいずれかの操作を実行します。 • [ビューのリセット（Reset View）]を選択しま • チャートを右クリックし、[リセット（Reset）

Microsoft パフォーマンス ツールを使用した perfmon ログ ファイルの表示

（注） [パフォーマンス（Performance）]にアクセスする方法は、コンピュータにインストールされている Windows のバージョンによって異なります。

手順

ステップ 1 **[スタート（Start）]** > **[設定（Settings）]** > **[コントロール パネル（Control Panel）]** > **[管理ツール（Administrative Tools）]** > **[パフォーマンス（Performance）]** の順に選択します。

ステップ 2 アプリケーション ウィンドウで次の操作を実行します。

a) マウスの右ボタンをクリックします。

b) [プロパティ（Properties）]を選択します。

ステップ 3 [システム モニタのプロパティ（System Monitor Properties）] ダイアログボックスで [ソース（Source）] タブを選択します。

ステップ 4 perfmon ログ ファイルをダウンロードしたディレクトリを参照し、perfmon csv ファイルを選択します。 ログファイルに含まれる命名規則は PerfMon_<node>_<month>_<day>_<year>_<hour>_<minute>.csv です。たとえば、PerfMon_172.19.240.80_06_15_2005_11_25.csv となります。

ステップ 5 [Apply]を選択します。

ステップ 6 [時間の範囲（Time Range）]を選択します。 表示する perfmon ログ ファイルで時間の範囲を指定するには、適切な開始時刻と終了時刻までバーをドラッグします。

ステップ 7 [カウンタの追加（Add Counters）] ダイアログボックスを開くには、[データ（Data）] タブを選択し、[追加（Add）]を選択します。

ステップ 8 [パフォーマンス オブジェクト（Performance Object）] ドロップダウン リスト ボックスから perfmon オブジェクトを選択します。 オブジェクトに複数のインスタンスがある場合は、[すべてのインスタンス（All instances）]を選択するか、表示するインスタンスだけを選択します。

ステップ 9 [すべてのカウンタ（All Counters）]を選択することも、表示するカウンタだけを選択することもできます。

ステップ 10 [追加（Add）]を選択して、選択したカウンタを追加します。

ステップ 11 カウンタの選択が終了したら、[閉じる（Close）]を選択します。

Troubleshooting

perfmon データ ログのトラブルシューティング

Troubleshooting perfmon データ ロギング機能は、Cisco TAC がシステムの問題を識別する際に役立ちます。 Troubleshooting perfmon データ ロギングを有効にすると、選択したノードでの一連のシステムとオペレーティング システムのパフォーマンス統計情報の収集が開始されます。収集された統計情報には、システム診断に使用できる総合的な情報が含まれます。

Troubleshooting perfmon データ ロギングは、システムの状態に関する総合的な情報を提供する一連の perfmon カウンタから統計情報を収集するように、自動的に設定されます。 Troubleshooting Perfmon データ ロギングが有効である場合、CPU 使用率の増加は 5 パーセント未満であり、使用されるメモリ量にも目立った増加はなく、毎日約 50 MB の情報がログ ファイルに書き込まれることが推測されます。

Troubleshooting perfmon データ ロギング機能を使用して、次の管理タスクを実行できます。

- Troubleshooting perfmon データ ロギング用のトレース フィルタを有効または無効にする。
- 各サーバーで事前定義された一連のシステムとパフォーマンスオブジェクトおよびカウンタをモニタする。
- モニタされたパフォーマンスデータをサーバー上のアクティブ ログ パーティションの var/log/active/cm/log/ris/csv ディレクトリに CSV ファイル形式で記録する。 ログファイルに使用される命名規則は PerfMon_<node>_<month>_<day>_<year>_<hour>_<minute>.csv です。たとえば、PerfMon_172.19.240.80_06_15_2005_11_25.csv となります。 ポーリング レートを指定する。 このレートは、パフォーマンスデータが収集され、ログに記録されるレートを示します。 ポーリング レートは 5 秒まで縮めることができます。 デフォルトのポーリング レートは 15 秒です。
- Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用するか、Real-Time Monitoring Tool のパフォーマンス ログ ビューアを使用して、ログ ファイルをグラフィック形式で表示する。
- ディスクに保存するログ ファイルの最大数を指定する。 この制限を超えると、最も古いログ ファイルが削除される方法でログ ファイルは自動的にパージされます。 デフォルトは 50 ファイルです。
- メガバイト単位の最大ファイル サイズに基づいて、ログ ファイルのロールオーバー基準を指定する。 デフォルト値は 2 MB です。
- Real-Time Monitoring Tool の Trace & Log Central 機能またはコマンドライン インターフェイスを使用して、Cisco RIS Data Collector PerfMonLog ログ ファイルを収集する。

Troubleshooting perfmon データ ロギング機能は、次の perfmon オブジェクト内の次のカウンタから情報を収集します。

（注） Cisco Unity Connection カウンタは、troubleshooting perfmon データ ログに記録されません。

- Database Change Notification Server オブジェクト：
  - Clients
  - CNProcessed
  - QueueDelay
  - QueuedRequestsInDB
  - QueuedRequestsInMemory
- Database Local DSN オブジェクト：
  - CcmDbSpace_Used
  - CcmtempDbSpace_Used
  - CNDbSpace_Used
  - LocalDSN
  - RootDbSpace_Used
  - SharedMemory_Free
  - SharedMemory_Used
- Enterprise Replication DBSpace Monitors オブジェクト：
  - ERDbSpace_Used
  - ERSBDbSpace_Used
- IP オブジェクト：
  - In Receives
  - In HdrErrors
  - In UnknownProtos
  - In Discards
  - In Delivers
  - Out Requests
  - Out Discards
  - Reasm Reqds

- Reasm Oks
- Reasm Fails
- Frag OKs
- Frag Fails
- Frag Creates
- InOut Requests

- Memory オブジェクト：
  - % Page Usage
  - % VM Used
  - % Mem Used
  - Buffers Kbytes
  - Cached KBytes
  - Free KBytes
  - Free Swap KBytes
  - HighFree
  - HighTotal
  - Low Total
  - Low Free
  - Page Faults Per Sec
  - Page Major Faults Per Sec
  - Pages
  - Pages Input
  - Pages Input Per Sec
  - Pages Output
  - Pages Output Per Sec
  - SlabCache
  - SwapCached
  - Shared Kbytes
  - Total Kbytes
  - Total Swap Kbytes
  - Total VM Kbytes

- Used Kbytes
- Used Swap Kbytes
- Used VM Kbytes

- Network Interface オブジェクト：
  - Rx Bytes
  - Rx Packets
  - Rx Errors
  - Rx Dropped
  - Rx Multicast
  - Tx Bytes
  - Tx Packets
  - Tx Errors
  - Tx Dropped
  - Total Bytes
  - Total Packets
  - Tx QueueLen

- Number of Replicates Created and State of Replication オブジェクト：
  - Replicate_State

- Partition オブジェクト：
  - % CPU Time
  - %Used
  - Await Read Time
  - Await Time
  - Await Write Time
  - Queue Length
  - Read Bytes Per Sec
  - Total Mbytes
  - Used Mbytes
  - Write Bytes Per Sec

- Process オブジェクト：
  - % Memory Usage

- Data Stack Size
- Nice
- PID
- STime
- % CPU Time
- Page Fault Count
- Process Status
- Shared Memory Size
- VmData
- VmRSS
- VmSize
- Thread Count
- Total CPU Time Used

- Processor オブジェクト：
  - Irq Percentage
  - Softirq Percentage
  - IOwait Percentage
  - User Percentage
  - Nice Percentage
  - System Percentage
  - Idle Percentage
  - %CPU Time

- System オブジェクト：
  - Allocated FDs
  - Freed FDs
  - Being Used FDs
  - Max FDs
  - Total Processes
  - Total Threads
  - Total CPU Time

- TCP オブジェクト：

- Active Opens
- Passive Opens
- Attempt Fails
- Estab Resets
- Curr Estab
- In Segs
- Out Segs
- Retrans Segs
- InOut Segs

- Thread オブジェクト（Troubleshooting Perfmon データ ロガーは、Unified Communications Manager スレッドのみを記録します）：
  - %CPU Time

- Cisco CallManager オブジェクト：
  - CallManagerHeartBeat
  - CallsActive
  - CallsAttempted
  - CallsCompleted
  - InitializationState
  - RegisteredHardwarePhones
  - RegisteredMGCPGateway
  - RegisteredOtherStationDevices

- Cisco SIP Stack オブジェクト：
  - CCBsAllocated
  - SCBsAllocated
  - SIPHandlerSDLQueueSignalsPresent

- Cisco CallManager System Performance オブジェクト：
  - AverageExpectedDelay
  - CallsRejectedDueToThrottling
  - CodeRedEntryExit
  - CodeYellowEntryExit
  - QueueSignalsPresent 1-High

- QueueSignalsPresent 2-Normal
- QueueSignalsPresent 3-Low
- QueueSignalsPresent 4-Lowest
- QueueSignalsProcessed 1-High
- QueueSignalsProcessed 2-Normal
- QueueSignalsProcessed 3-Low
- QueueSignalsProcessed 4-Lowest
- QueueSignalsProcessed Total
- SkinnyDevicesThrottled
- ThrottlingSampleActivity
- TotalCodeYellowEntry

- Cisco TFTP Server オブジェクト：
  - BuildAbortCount
  - BuildCount
  - BuildDeviceCount
  - BuildDialruleCount
  - BuildDuration
  - BuildSignCount
  - BuildSoftKeyCount
  - BuildUnitCount
  - ChangeNotifications
  - DeviceChangeNotifications
  - DialruleChangeNotifications
  - EncryptCount
  - GKFoundCount
  - GKNotFoundCount
  - HeartBeat
  - HttpConnectRequests
  - HttpRequests
  - HttpRequestsAborted
  - HttpRequestsNotFound

- HttpRequestsOverflow
- HttpRequestsProcessed
- HttpServedFromDisk
- LDFoundCount
- LDNotFoundCount
- MaxServingCount
- Requests
- RequestsAborted
- RequestsInProgress
- RequestsNotFound
- RequestsOverflow
- RequestsProcessed
- SegmentsAcknowledged
- SegmentsFromDisk
- SegmentsSent
- SEPFoundCount
- SEPNotFoundCount
- SIPFoundCount
- SIPNotFoundCount
- SoftkeyChangeNotifications
- UnitChangeNotifications

Perfmon データ ロギングのトラブルシューティング

perfmon のデータ ロギング機能を使用して perfmon オブジェクト内のカウンタから情報を収集するには、次の手順に従います。

始める前に

- RISDC perfmon ロギングも Troubleshooting Perfmon データ ロギングとして知られています。 RISDC perfmon ロギングを有効にすると、サーバーは問題のトラブルシューティングに使用されるパフォーマンスデータを収集します。
- RIS Data Collector（RISDC）の perfmon ログを有効にすると、Unified Communications Manager および IM and Presence Service は、サーバー上に書き込まれるログのシステムに関する情報を収集します。

- RISDC perfmon ログを有効または無効にするには、管理インターフェイスで、**[システム（System）] > [サービス パラメータ（Service Parameter）]** の順に選択し、[サービス（Service）] リスト ボックスから [Cisco RIS Data Collector] サービスを選択します。 デフォルトでは、RISDC perfmon ロギングは有効になります。

手順

ステップ 1 管理インターフェイスで、**[システム（System）] > [サービス パラメータ（Service Parameter）]** の順に選択します。

ステップ 2 [サーバー（Server）] リストボックスで、サーバーを選択します。

ステップ 3 [サービス（Service）] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco RIS Data Collector] を選択します。

ステップ 4 次の表の説明に従って、適切な設定を入力します。

表 *2: Perfmon* データ ロギング パラメータのトラブルシューティング

フィールド	説明
Enable Logging	ドロップダウン ボックスから [True]を選択すると per ングが有効になり、[False]を選択すると無効になりま
Polling Rate	ポーリング レートの間隔（秒単位）を入力します。 す。 デフォルト値は 15 です。
最大ファイル数（Maximum No. of Files）	ディスクに保存する Troubleshooting Perfmon データ ロ （最小）～ 100（最大）の値を入力できます。 デフォ [最大ファイル数（Maximum No. of Files）] パラメータ Size）] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を （Maximum Number of Files）] の値と [最大ファイル サ きに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます ファイル数が、このフィールドに指定した最大ファイ いログ ファイルが削除されます。 **注意** このパラメータを変更する前に別のコンピュータにロ ファイルが失われるおそれがあります。
最大ファイルサイズ（MB）（Maximum file size (MB)）	新しいファイルが開始される前に、perfmon ログ ファ バイト単位）を入力します。1（最小）～500（最大） です。 [最大ファイル数（Maximum No. of Files）] パラメータ Size）] パラメータを設定する際は、ストレージ容量を （Maximum Number of Files）] の値と [最大ファイル サ きに、100 MB を超えない値にすることが推奨されます

ステップ 5 **保存**を選択します。

（注）
RTMT を使用してログファイルをダウンロードすることにより、サーバー上の Cisco RIS Data Collector サービスに関するログファイルを収集できます。 CLI を使用してログ ファイルをダウンロードする場合は、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。 ログ ファイルを収集した後は、RTMT でパフォーマンス ログ ビューアを使用するか、Microsoft Windows パフォーマンス ツールを使用してログ ファイルを表示できます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。